

競技上の注意

山梨県小中学校体育連盟ソフトテニス専門部

- (1) 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」及び大会要項・大会出場規定に従って行う。マッチは7ゲームとする。天候などの状況により5ゲームとする場合もある。
- (2) コート割及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更をすることがあるので、放送には十分注意する。
- (3) 選手は背中に規定のゼッケンを、監督及び外部指導者は大会本部より貸与されるIDストラップをつける。また、大会出場規定に従い、服装・テニスシューズ・ゼッケン等きちんと整える。選手は、プレーの度にシャツの裾が出ないようにする。(ただし、熱中症対策として大会本部からシャツの裾だしの許可が出た時はシャツを出しても良い)
- (4) 番号の若い方の選手(チーム)は、中央通路側のベンチとし、チェンジサイズ時にベンチコーチを受ける場合は、選手がベンチの所まで行き受ける。ベンチコーチができる者は、監督および大会本部より許可を受けた外部指導者に限る。選手は監督、外部指導者の助言を受けるために、他のコートに移動してはいけない。
- (5) 選手及び監督、外部指導者は、アンパイヤーの指示に従う。選手はマッチの開始から終了まで連続的にプレーする。1ポイントごとにペアで握手をしたり、相談したりしない。
- (6) 選手及び監督、外部指導者は、お互いにマナーを尊重し、過度のかけ声または相手を不快にする発声をしない。常に真剣にプレーし、相手を威圧するような態度や、ふてくされてのろのろしたり、相手をにらみつけたり、ののしったりして、プレー以外の要素で相手をおとしめようとししない。
- (7) 監督、外部指導者は、それぞれの立場で、わきまえた行動をする。特にベンチでの発声や態度に気を付ける。本大会では、プレー中の応援、励ましなどの発声は、禁止とする。
- (8) マッチ開始前の呼び出しは原則として行わないので進行には十分注意する。
- (9) 選手は、試合順を確認し、前のマッチが終わったらすぐにコートに入る。前のマッチが終了してから5分経過しても集合しない場合は、集合の通告(放送)を行う。通告後も集合しない場合は、警告の対象となる。

(10) 開始挨拶後について

開始挨拶後のアドバイスは禁止する。本大会では、開始挨拶後、すぐに1分間の乱打を始める。乱打後にベンチには戻らず、すぐに試合を始める。

(11) 審判のコールに従って試合を進め、コールが良く聞こえないときは質問し、特にカウントはしっかりと確認する。ボールの行方は選手が確認し、自分たちで拾いにいく。

(12) 異議の申し立ては、選手、監督または外部指導者ともにできないが、質問することはできる（個人戦のときは選手のみ、団体戦のときは選手、監督、外部指導者のいずれか一人のみ）。監督または外部指導者が、選手に対して、「質問をしなさい」と言葉をかける行為は、警告の対象となる。

(13) 個人戦について

- ① 第2対戦目以降のトスは、コート上ではなく、事前に大会本部席にて行う(事前トス)。自分の試合の1つ前の試合が始まったら、大会本部席にペアで来る。放送で呼ばれることの無いように、試合の進行を注意深く見ておくこと。試合相手がそろったら、その場でトスを行う。本部役員の確認のもと、採点票に記入をし、その採点票をもって審判に渡し、試合を行う。
- ② 監督のベンチ入りは1マッチ1回のみとしてマッチ途中でベンチから出た場合、再びベンチに戻ることは認めない。
- ③ コートへの入場時に、監督が他のコートにおいて同校のペアがマッチ中のため入場できないときは、マッチ途中からのベンチ入りを認める。
- ④ 監督はコート内では指定されたベンチに着席し、マッチ中の監督交代は認められない。

(14) 団体戦について

- ① 対戦相手が決まっている1回戦のオーダー提出は、第1対戦目に入っているチームは朝の監督会議までに、第2対戦目以降の場合は第1対戦が終了するまでに監督が大会本部席に提出する。それ以降は対戦相手が決まり次第、速やかに大会本部席に提出する。
- ② トスはマッチごと、コート上で行う。
- ③ 大会運営上、2面展開、3面展開で行うこともある。監督、外部指導者は、同じベンチに着席し、ベンチの位置は2面または3面の中央とする。最終的に1面に戻った場合は、そのコートの中央とする。監督席の移動については該当校で移動する。また、マッチ終了の挨拶は、最終マッチのコートで行う。
- ④ 団体戦途中で監督が抜けて、敗者審判に行くようなことはしない。事前に分かっているのであれば、初めからベンチに入らない。

(15) 身体上の理由など正審が必要だと認めた場合はタイムの申請が認められる。しかし過去には、身体上の理由と思えない（流れを変えるためと思われるような）タイムの申請や、同じく流れを変えるために「ボールの空調を依頼した」と思われる行動があった。正当な理由なく、「連続的にプレーすること」に反するような行動はしない。

(16) 警告について

以下の項目は警告の対象となる。

① マッチ中の遅延行為（レッツプレーに従わない場合）

例：サービス時に風が止むのを待っている。マッチ中に止まって、間を取っている。（連続プレーを妨げるもの）

② チェンジサイズ時やファイナルゲーム前の制限時間の超過

「レッツプレー」のコール後、次のゲームを開始する態勢に入らない。

例：レッツプレーのコールの後に水分補給を始める。

③ チェンジサイズ時やファイナルゲーム前の制限時間以外の声かけ

例：ポイントの合間で監督・外部指導者の声かけに後ろを向いて返事をする。

【監督・外部指導者・ベンチから】

- ・ プレーへの指示や指導が伴う場合。
- ・ サインやジェスチャーによるアドバイス。
- ・ 過度な喜びの表現（例：1ポイントごとにベンチから立ち上がるなど。）

【応援席から】

- ・ プレーへの指示や指導が伴う場合。

応援席に対しては、注意の喚起をし、守れない場合、退場宣告となる。

選手に対しては声かけに反応しているとみなしたら警告の対象となる。

④ インプレー中の声かけ

正審によるカウントのコール後から、ポイントが決定するまでの間は選手以外による発声はできない。発声した場合、ベンチ及び応援席に対しては注意、監督に対しては警告の対象となる。

⑤ ボールの痕跡確認

- ・ 選手、監督が痕跡に近づこうとした場合、アンパイヤーはタイムをかけて制止するが、従わない場合は警告の対象となる。その時、選手はベンチに戻らない。
- ・ 判定に対しての再質問があった場合は警告の対象となる。

⑥ マナー違反

- ・ ラケットでネットやコートたたくななどの行為
- ・ 相手を威圧するような行為（相手に向けてのガッツポーズなど）
チェンジサイズで、自分たちのベンチと反対側に行った時、自分のチームの仲間に見せるガッツポーズは、相手に見えてしまうガッツポーズとなる。
- ・ 相手を不快にさせる応援の文言
例：「一本ありがとう」「もうけもうけ大もうけ」等

(17) 審判について ※別紙「正審の役割、副審の役割」を参照

- ① 審判をするときは、大会本部に行き、どのコートの審判かをはっきり告げ、採点票や用具等を受け取り、審判するコートで、選手を中央に集め名前を確認し、トスをする。
- ② 団体戦の審判は、原則、有資格者顧問（審判ワッペンをつける）が審判をする。
- ③ 正審は大きな声を出すこと。「アウト」「フォルト」だけコールし、「イン」は言わずに黙っている。特にきわどいインの時は手を前に出して「イン」のサインをだしても良い。
- ④ 副審は、1ポイント決まったら、ネットポスト脇の丸椅子に置いてあるカウンターを操作し、カウントをめくる。
- ⑤ 副審は、サービスライン及びサービスサイドライン、サイドラインの判定を行う。ベースラインやサービスセンターラインの判定の権限は正審にあるので、副審はベースラインやサービスセンターラインをよく見ていることは必要であるが、サインは出さない。正審に聞かれるまでは何もしない。
- ⑥ 選手からの質問が来て、ボールの痕跡を確認した後などは、正審は両ペアを審判台付近に呼び、判定の通達をする。このとき副審も審判台のところへ行く。
- ⑦ **トラブルが発生したり、対応の仕方が分からなかったりしたときは、大会本部に相談する（副審が大会本部に行く）。※個人戦の時、生徒審判の判定で疑問に思うことが発生した場合、両校の監督は相談し（両校がいない場合は片方の監督が）、生徒審判に本部に確認するように言う。生徒審判から大会本部へ確認し対応をする、という流れをとる。**
- ⑧ 試合が終わったら、選手がボールを拾って中央に集まり、試合結果を確認し、あいさつをする。勝者は採点票にサインをする。

※今年度は山梨県甲府市小瀬スポーツ公園テニス場にて行われる関東大会へ向けて、上記とは大会の運営方法などを変更して行う部分が出てくることもあります。その場合は朝の監督会議などで事前に周知する。